

「下水道事業の経営状況」

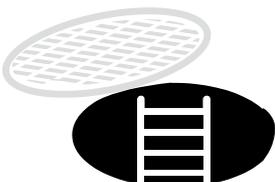
「まちの下水道について」のシリーズ第2弾です。
 今回は、令和元年度の決算状況と過去5年間の状況についてお知らせいたします。

下水道経営は独立採算制へ移行

まちの下水道経営は、みなさんが町へ納めていただく税金ではなく、使用水量に応じて支払っていただく料金収入で事業経費を賄う「独立採算制」に、令和6年度までに移行する予定となっております。あわせて、公営企業会計（複式簿記）を導入することで、下水道経営に関する経営成績や財産、負債などの資産状況を「見える化」していきます。

令和元年度の決算状況について

「収益的収支」は、日常的に発生する経費とそれをまかなう収入をいいます。「資本的収支」は、施設を新しくするなどといった建設・改良に関する費用とそれをまかなう収入のことをいいます。収益的収支の当期純利益で資本的収支の収入不足分を補てんするのが本来の流れです。ですが、現状では収益的収支、資本的収支ともに、一般会計からの援助なしには事業を行えない状況となっております。



収益的収支

下水道事業を行うための予算

収入

下水道使用料
1億 7,926万円

一般会計からの補助金
5,214万円

総額 2億 4,604万円

その他
1,464万円

支出

下水道処理にかかる修繕費や光熱費等
1億 6,570万円

当期純利益
2,447万円

総額 2億 4,604万円

支払利息
3,690万円

人件費
1,897万円



資本的収支

処理施設をつくるための予算

収入

借入金
2億 2,560万円

国庫補助金等
1億 554万円

総額 5億 5,971万円

当期純利益
2,447万円

一般会計からの補助金
2億 410万円

収入不足額

支出

次年度繰越金
16万円

総額 5億 5,971万円

建設改良費
2億 381万円

企業債償還金
3億 5,574万円

近年の人口減少に伴う利用者数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響拡大などから収益的収入が減少し続けています。未収金の回収や経費の圧縮に努めておりますが、回収率が5割程度しかないこと、設備投資に伴う借入金返済金額はこれまでと同程度となることから資金の固定化が進んでいます。処理場等の施設の老朽化による維持管理費の増加も見込まれるなど、大変厳しい経営状況となっております。

今後、料収入の確保や経費圧縮に取り組んでいく必要があります。

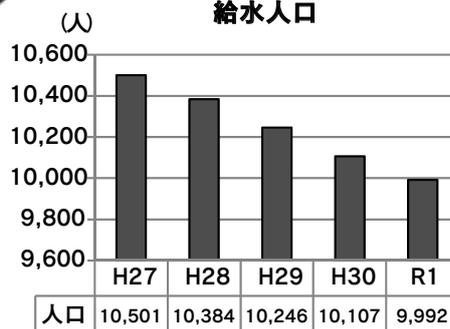
シリーズ「まちの下水道」第3弾は、広報しゃり7月号での掲載を予定しています。テーマは「まちの下水道の今後について」です。



グラフでわかる過去5年間の動き

1

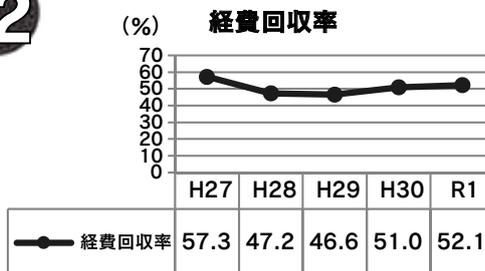
給水人口



人口の減少に伴い、水道利用者数も減っています。

2

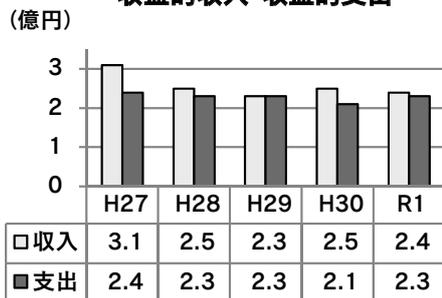
経費回収率



使用料で回収すべき経費を実際にどの程度賄えているかを表しています。使用料で賄えない経費を繰入金などで補填しており、良好とは言えない状態です。
(= 料金回収率が100%以上で良好)

4

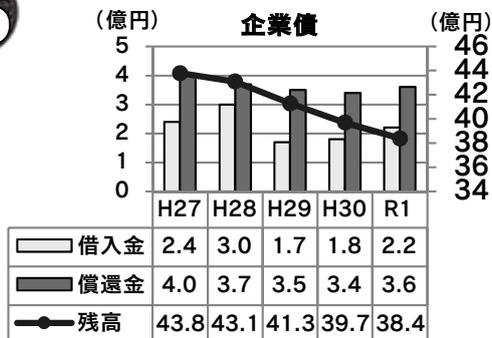
収益的収入・収益的支出



使用料の減少による収益的収入の減少が続いています。

5

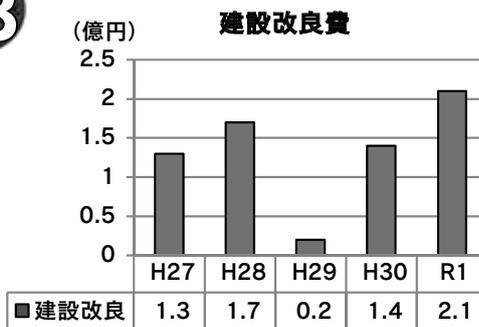
企業債



借入金です。借入金の抑制により減少しています。

3

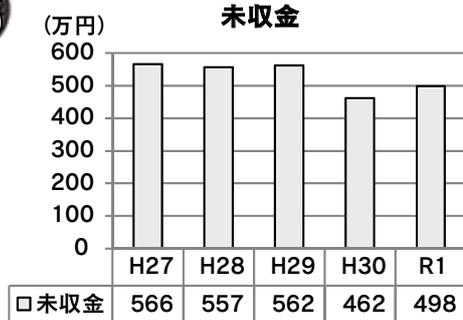
建設改良費



- 最低限の工事のみを行い、借金借入の圧縮に努めています。
- 老朽化が進んでおり、今後更に維持管理のための費用の増加が見込まれています。

6

未収金



使用料の滞納です。早期の「納付相談」や「給水停止」により、滞納額は減少傾向が続いています。